

2019 年度幼稚園教員資格認定試験

教科及び教職に関する科目(Ⅱ)

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験運営大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 運営大学名、氏名、受験番号、受験科目を 2019 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、幼稚園の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊙ ⊗ ⊕ ⊖

問 1 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 1 幼稚園教育の基本」の一文である。文中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児は ① の下で自己を十分に発揮することにより ② に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、③ が展開されるようにすること。

	①	②	③
ア	安定した情緒	学 び	幼児期に望ましい遊び
イ	安定した情緒	発 達	幼児期にふさわしい生活
ウ	豊かな環境	発 達	幼児期に望ましい遊び
エ	豊かな環境	学 び	幼児期にふさわしい生活

問 2 『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 3 月文部科学省)「第 1 章 総説 第 1 節 幼稚園教育の基本」に示された記述として適切でないものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 幼稚園教育のねらいが確実に実現するように、1つの遊びの中で1つの経験が展開されるように留意し、領域別に適切な指導をしなければならない。
- イ 遊びにおいて、幼児が周囲の環境に思うがままに多様な仕方に関わるということは、幼児が周囲の環境に様々な意味を発見し、様々な関わり方を見出すということである。
- ウ 遊びを展開する過程においては、幼児は心身全体を働かせて活動するので、心身の様々な側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていく。
- エ 自発的な活動としての遊びにおいて、幼児は心身全体を働かせ、様々な体験を通して心身の調和のとれた全体的な発達の基礎を築いていくのである。

問 3 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 3 教育課程の役割と編成等」に示された記述として正しくないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 満 3 歳児については、学年の途中から入園することを考慮し、幼児が安心して幼稚園生活を過ごすことができるよう配慮すること。
- イ 幼稚園の 1 日の教育課程に係る教育時間は、5 時間を標準とする。ただし、幼児の心身の発達^①の程度や季節などに適切に配慮するものとする。
- ウ 幼稚園の毎学年の教育課程に係る教育週数は、特別の事情のある場合を除き、39 週を下つてはならない。
- エ 教育課程の編成に当たっては、幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえつつ、各幼稚園の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。

問 4 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 3 教育課程の役割と編成等 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項」の一文である。文中の ～ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼稚園教育において育まれた を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、 との意見交換や合同の研究の機会などを設け、 を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との を図るよう努めるものとする。

	①	②	③	④
ア	資質・能力	園全体の教職員	教育課程	共通理解
イ	心情・態度	小学校の教師	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	共通理解
ウ	心情・態度	園全体の教職員	教育課程	円滑な接続
エ	資質・能力	小学校の教師	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	円滑な接続

問 5 次の文章は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 4 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」の一部である。文章中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児が様々な人やものとの関わりを通して、① をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。その際、幼児の発達に即して② で深い学びが実現するようにするとともに、③ 体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること。

	①	②	③
ア	学習的体験	主体的・対話的	心を動かされる
イ	多様な体験	活動的・発展的	計画性ある
ウ	多様な体験	主体的・対話的	心を動かされる
エ	学習的体験	活動的・発展的	計画性ある

問 6 次の①~④の各文のうち、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 2 章 ねらい及び内容 健康 2 内容」に示された記述として正しいものを○、正しくないものを×としたとき、組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
- ② 規律ある行動の大切さに気付く。
- ③ 進んで体を動かし、体力を付ける。
- ④ 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。

	①	②	③	④
ア	×	○	×	○
イ	×	×	○	○
ウ	○	○	×	×
エ	○	×	×	○

問 7 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 2 章 ねらい及び内容 人間関係 3 内容の取扱い」の一文である。文中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児が互いに関わりを深め、 ① 遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と ② ながら活動を展開する楽しさや ③ が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

	①	②	③
ア	仲良く	試行錯誤し	一人一人の思い
イ	仲良く	話し合い	共通の目的
ウ	協同して	試行錯誤し	共通の目的
エ	協同して	話し合い	一人一人の思い

問 8 次の①~④の各文のうち、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 3 月文部科学省)「第 2 章 ねらい及び内容 第 3 節 環境の構成と保育の展開 2 保育の展開」に示された記述として適切なものを○、適切でないものを×としたとき、組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 教師がねらいに基づいて構成した環境は幼児の発達に必要な環境なので、幼児がその環境を受け入れないとしても容易に動かしたりせず、環境を固定しておくことが大切である。
- ② 教師は、常に幼児が具体的な活動を通して発達に必要な経験を積み重ねていくよう必要な援助を重ねていくことが大切であり、そのためには活動のきっかけを捉え、幼児の活動の理解を深めることが大切である。
- ③ 幼児の活動に沿った保育の展開に当たっては、幼児の主体性と指導の計画性を関連付けることが重要である。
- ④ 幼児の活動の理解に当たっては、活動にかかわっている幼児の動きや人数などの規模の大きさを重視し、丁寧に観察することが大切である。

	①	②	③	④
ア	×	○	○	×
イ	×	○	×	○
ウ	○	○	×	×
エ	×	×	○	○

問 9 『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 3 月文部科学省)「第 3 章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 2 子育ての支援」に示された記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 子供への関わり方や自分の子育てについて悩みや不安を感じている保護者に対しては、その思いを十分に受け止めながら、保護者自身が自分の子育てを振り返るきっかけをつくったり、子育てについて学ぶ場面をつくったりするなどして、家庭の教育力の向上につなげていくことが大切である。
- イ 児童虐待を受けたと思われる子供を発見した場合には、幼稚園は守秘義務があるので保護者の確認なしに市町村や児童相談所に通告することは避けなければならない。
- ウ 保護者の養育が不適切である場合や家庭での育ちの状況が気になる子供がいた場合の保護者支援については、子供の最善の利益を重視しつつ、幼稚園のみで抱え込むことなく、カウンセラーや保健師等の専門家や、市町村などの関係機関と連携して、適切な支援を行っていくことも大切である。
- エ 子育ての支援は、幼稚園の園児の関係者に限らず、広く地域の人々を対象として行うことが大切である。

問10 次の文章は、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成 29 年内閣府・文部科学省・厚生労働省告示第 1 号)「第 1 章 総則 第 3 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項」の一部である。文章中の ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

園児の一日の生活の連続性及びリズムの ① に配慮するとともに、保護者の生活形態を反映した園児の ② の長短、③ の違いを踏まえ、園児一人一人の状況に応じ、教育及び保育の内容やその展開について工夫をすること。特に入園及び年度当初においては、家庭との連携の下、園児一人一人の ④ に十分に配慮して一日の自然な生活の流れをつくり出していくようにすること。

	①	②	③	④
ア	規則性	睡眠時間	家庭環境や生育歴	生活の仕方やリズム
イ	多様性	在園時間	入園時期や登園日数	生活の仕方やリズム
ウ	多様性	睡眠時間	家庭環境や生育歴	生活経験や発達
エ	規則性	在園時間	入園時期や登園日数	生活経験や発達

問11 次の①～④の各文のうち、文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』（平成22年7月改訂）に示された教師の姿勢についての記述の趣旨として適切なものの組合せを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 幼児理解は、教師が幼児を一方向的に理解するものではなく、幼児との相互理解によるものであり、相互影響の過程で生まれたものであることを踏まえておくことが必要である。
- ② 教師が一人の幼児と温かい関係を結ぶことは、他の幼児にとって教師への信頼感を損なう。
- ③ 教師が幼児を理解し評価することは、自分自身や自分の行っている保育を理解し評価することである。
- ④ 幼児の心の動きをとらえるために、幼児の言葉を特に重視することが大切である。

- ア ①, ③
- イ ①, ④
- ウ ②, ③
- エ ②, ④

問12 文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集 指導と評価に生かす記録』（平成25年7月）に示された記録に関する記述の趣旨として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 今日の遊びが明日へと続いていくために、教師は記録を通して自分の指導の過程を振り返り、評価していく。
- イ 教材に関しては教師が意図的に選んで幼児に与えるものであり、記録との関わりはない。
- ウ 保育を振り返り、指導計画を改善していくためには、保育の具体的な記録が必要である。
- エ 記録は、他の教師や園全体で情報を共有し、語り合い、学び合うための基盤となるものである。

問13 次の[A群]に示す幼児の特徴的な描画表現を現す用語と、[B群]に示す幼児が描いた絵の説明の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

[A群]

- ① 異時同存表現 ② 展開表現 ③ 誇張表現 ④ 視点移動表現

[B群]

- a 1枚の絵の中に、雨の日と晴れている日が一緒に描かれている。
b 実際には自分よりも小さなカブトムシが自分よりも大きく描かれている。
c 四角いテーブルを囲んで座っている人物がテーブルの四辺の方向に放射状に倒れているように描かれている。
d 人の横顔を描いているが、目は2つ描かれている。

	①	②	③	④
ア	a	b	c	d
イ	d	c	b	a
ウ	a	c	b	d
エ	d	b	c	a

問14 次の文章は、子供が本に親しむための活動について説明したものである。□に当てはまる語句として最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

□とは、語り手が本もなにも持たずに、言葉だけで「お話」を語ることである。耳から聞く言葉から物語のイメージを描くことで想像力を、言葉の美しさやリズムを楽しむことで表現力を育むことができることから、図書館や保育現場で実践されている。

- ア ブックスタート
イ アニマシオン
ウ ブックトーク
エ ストーリーテリング

問15 音楽の3要素として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア メロディー，テンポ，ハーモニー

イ 大きさ，高さ，音色

ウ 強さ，高さ，調子

エ メロディー，リズム，ハーモニー

(全15問—以下余白)